

『だろっ』から『かもしれない』へ

●『かもしれない運転』の目的

自動車や自転車で人通りの少ない交差点を運転中に、左右から急に人が飛び出す状況を思い浮かべてみましょう。
 「人は飛び出してこないだろっ」と考えて運転していると、飛び出しを予測していないため人と接触する可能性が高くなります。
 「人が飛び出てくるかもしれない」と飛び出しを予測して運転することは、人との接触を意識して防ぐことに繋がります。
 このように『かもしれない運転』をする目的は事故を未然防止することであり、
 この『かもしれない〇〇』は工場等の作業場でも災害を未然防止するために使われます。

要点整理

『だろっ』：『人は飛び出してこないだろっ』等、**楽観的な予測をもとに行動**する。

『かもしれない』：『人が飛び出てくるかもしれない』等、**危険を予測して行動**する。

●作業場の事例から『だろっ』・『かもしれない』の違いを考えてみましょう！

Case.1 作業場を移動していると、少し濡れた床があった。

× 少し濡れているくらいなら
床に足を滑らせない『だろっ』

想像以上に足が滑り、
転んでケガをする

○ 床に足を滑らせ転ぶ『かもしれない』
だから、歩幅を小さくして歩こう！

歩幅を小さくし、重心を安定させることで
未然にケガを防ぐ



Case.2 手袋を着用するルールだが、手袋を着用するとやりにくい作業がある。

× 慣れているので手袋を外しても
手の指先を切らない『だろっ』

手袋を外した状態で手の指先に刃を
あててしまい、**指先を深く切り、ケガをする**

○ 手の指先を切る『かもしれない』
だから、手袋は着用しよう！

手袋を着用することで、
未然にケガを防ぐ



Case.3 移動通路の頭上から目線の高さまで突起物がある。

× 頭を下げてくぐれば
突起物に頭をぶつけない『だろっ』

突起物の高さや大きさを勘違いし、
頭に強くぶつけてケガをする

○ 突起物に頭をぶつける『かもしれない』
だから、下を通らないようにしましょう！

突起物の下を通らないことで、
未然にケガを防ぐ



**どのような状況においても、常に危険は潜んでいます。
『ケガをするかもしれない』と考えて行動することを意識し、
ケガを未然に防ぎましょう！**



★今月の安全衛生川柳～慣れた時でも『かもしれない』を意識しましょう！

再確認 慣れた時こそ 要注意

横浜支店 スタッフさんの作品

※安全衛生川柳を募集しています。詳しくはトコトコランドをご覧ください。